



東北の伝統的工芸品

# 東北の伝統的工芸品

青森県

## 津軽塗

つがるぬり【漆器】昭和50年指定  
◎青森県漆器協同組合連合会  
〒036-8042  
青森県弘前市清野袋3-8-5  
TEL.0172-35-3629  
https://www.tsugarunuri.org/



岩手県

## 南部鉄器

なんぶてつき【金工品】昭和50年指定  
◎岩手県南部鉄器協同組合連合会  
〒020-0055  
岩手県盛岡市繁字尾入野64-102  
盛岡手づくり村内  
TEL.019-689-2336  
https://www.ginga.or.jp/nanbu/  
https://oshu-nambutekki.com/



## 岩谷堂筆筒

いわやどうたんす【木工品】昭和57年指定  
◎岩谷堂筆筒生産協同組合  
〒023-1131  
岩手県奥州市江刺愛宕字海老島68-1  
TEL.0197-35-0275  
https://www.iwayado-tansu.jp/



## 秀塗塗

ひでひらぬり【漆器】昭和60年指定  
◎岩手県漆器協同組合  
〒028-7533  
岩手県八幡平市臥田230 安比塗漆器工房内  
TEL.0195-63-1065

## 浄法寺塗

じょうぼうじぬり【漆器】昭和60年指定  
◎岩手県漆器協同組合  
〒028-7533  
岩手県八幡平市臥田230 安比塗漆器工房内  
TEL.0195-63-1065

秋田県

## 樺細工

かほざいく【木工品】昭和51年指定  
◎角館工芸協同組合  
〒014-0352  
秋田県仙北市角館町外ノ山18  
TEL.0187-53-2228

## 川連漆器

かわつらしき【漆器】昭和51年指定  
◎秋田県漆器工業協同組合  
〒012-0105  
秋田県湯沢市川連町大字大館中野142-1  
湯沢市川連漆器伝統工芸館内  
TEL.0183-42-2410  
https://www.kawatsura.or.jp/



instagram

秋田県

## 大館曲げわっぱ

おだてまげわっぱ【木工品】昭和55年指定  
◎大館曲げわっぱ協同組合  
〒017-0843  
秋田県大館市字中町5  
旧正礼竹村新館B棟1F A室  
TEL.0186-49-5221  
https://odate-magewappa.com/



## 秋田杉桶樽

あきたすぎおける【木工品】昭和59年指定  
◎秋田杉桶樽協同組合  
〒016-0895  
秋田県能代市末広町4-3  
有限会社 樽富かまた内  
TEL.0185-52-2539

宮城県

## 宮城伝統こけし

みやぎでんとうこけし【人形】昭和56年指定  
◎宮城伝統こけし組合連合会  
〒989-6827  
宮城県大崎市鳴子温泉字原前74-2  
日本こけし館内 TEL.0229-83-3600  
http://www.kokesikan.com/  
1/1～3/31は閉館



## 雄勝硯

おがつすずり【文具】昭和60年指定  
◎雄勝硯生産販売協同組合  
〒986-1335  
宮城県石巻市雄勝町下雄勝2-17  
TEL.0225-57-2632  
https://www.ogatsusuzuri.jp/



## 鳴子漆器

なるこしき【漆器】平成3年指定  
◎鳴子漆器工芸会  
〒989-6835  
宮城県大崎市鳴子温泉字南原200  
TEL.0229-87-2361

## 仙台筆筒

せんだいたんす【木工品】平成27年指定  
◎仙台筆筒協同組合  
〒980-0014  
宮城県仙台市青葉区本町2-7-3  
仙台筆筒歴史工芸館内  
TEL.022-225-8368  
https://www.sendai-tansu.com/



山形県

## 山形鑄物

やまがたいもの【金工品】昭和50年指定  
◎山形鑄物伝統工芸組合  
〒990-2351  
山形県山形市鑄物町22  
長文堂内 TEL.023-643-7141

## 置賜軸

おいたまつむぎ【織物】昭和51年指定  
◎置賜軸伝統織物協同組合  
〒992-0031 山形県米沢市大字4-5-43  
菅野染舗内 TEL.0238-23-5044

山形県

## 山形佛壇

やまがたぶつだん【仏壇】昭和55年指定  
◎山形県仏壇商工業協同組合  
〒990-0031  
山形県山形市十日町1-7-31  
大原マンション105  
TEL.023-632-1516

## 天童将棋駒

てんどうしょうぎこま【その他工芸品】平成8年指定  
◎山形県将棋駒協同組合  
〒994-0013  
山形県天童市老野森1-3-28  
天童商工会議所内 TEL.023-654-3511  
http://www.tendocci.com/koma/



## 羽越しな布

うえつしなふ【織物】平成17年指定  
◎羽越しな布振興協議会  
〒999-7315  
山形県鶴岡市関川字向222  
関川しな織協同組合内  
TEL.0235-47-2502

福島県

## 会津塗

あいづぬり【漆器】昭和50年指定  
◎会津漆器協同組合  
〒965-0042  
福島県会津若松市大町1-7-3  
TEL.0242-24-5757  
http://www.chuokai-fukushima.or.jp/  
aizushikkikumiai/



## 大堀相馬焼

おほぼりそうまやき【陶磁器】昭和53年指定  
◎大堀相馬焼協同組合  
〒979-1513  
福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字知命寺40  
TEL.0240-35-4917  
https://www.somayaki.or.jp/



## 会津本郷焼

あいづほんごうやき【陶磁器】平成5年指定  
◎会津本郷焼事業協同組合  
〒969-6042  
福島県大沼郡会津美里町字瀬戸町甲3162  
会津本郷陶磁会館内  
TEL.0242-56-3007

## 奥会津編み組細工

おくあいづあみぐみこさい【木工品】平成15年指定  
◎奥会津三島編組品振興協議会  
〒969-7402  
福島県大沼郡三島町大字名入字諏訪ノ上395番地  
三島町生活工芸館内  
TEL.0241-48-5502  
https://www.okuazu-amikumi.jp/



## 奥会津昭和からむし織

おくあいづしやわからむしおり【織物】平成29年指定  
◎昭和村からむし後継者育成協議会  
〒968-0103  
福島県大沼郡昭和村大字下中津川字中島611  
昭和村産業建設課からむし振興係  
TEL.0241-57-2116



福島県 奥会津編み組細工

雪国だからこそ継承されてきた素朴な手編み  
奥会津地方の山間部に自生する植物を素材とする編み組細工で、堅牢で素朴な手編みの良さが特徴です。山間地における積雪期の手仕事として、古くから日常の生活に用いる籠や笥などが伝承されてきました。ヒロコ、山フドウ、マタタビ。それぞれに特性を生かした細工が施され、採取から完成に至るまで全て手作業で行われています。



福島県 大堀相馬焼

釉の中に駆ける神馬  
江戸中期に開窯。330年以上の伝統を引継ぎます。青磁釉による「青ひび」といわれるひび割れが、器全体の地模様となり素朴な味わいを持ちます。そこに描かれる「走り駒」の絵は、大堀相馬焼の代表的なシンボルです。また、独特の「二重焼」は、お湯が冷めにくく、熱いお湯を入れても持つことができます。



山形県 羽越しな布

手技がつむぎだす  
ざっくりとした樹皮の布  
羽越地域の山間部に生育するシナノキなどの樹皮から取れる鞣皮繊維で糸を作り、布状に織り上げたしな布。樹皮の繊維であることから機械化ができません。全ての工程が手作りでなされ、織り上がるまで年を要します。ざっくりとした手触りと落ち着きのある風合いに特徴があり、帯地ばかりでなく、バック、帽子等多くの日用品にも加工されています。



山形県 山形佛壇

分業もたらす匠の粋  
荘厳さ漂う伝統の金仏壇  
山形に仏壇がもたらされたのは、江戸時代中期。この地の豊かな木材と良質の漆に恵まれて発展しました。山形仏壇は7つの工程に分かれており、漆塗師、蒔絵師、金工師、職人それぞれの匠が技の粋を凝らして完成されます。肘木枠組の「宮殿」は緻密な細工が施され、黒色に着色した唐草模様は沈金を施した「金具」は深みの中に豪華さがあります。



山形県 山形鑄物

茶の湯釜といえは  
平安の昔から900年もの歴史を持つ山形鑄物。この地の土や川の砂は鑄物に非常に適しており、茶道に欠かせない茶の湯釜の多くが、実は山形産なのです。鉄瓶、青銅花瓶、鉄鍋、置物等、薄手で、しかも繊細な肌や正確な形は優れた技術によるものです。また、方、モダンでおしゃれな鑄物も、確かな技術によって生み出されています。

福島県 会津本郷焼  
こだわりの糸から織られる  
こだわりの織物  
からむしは、イラクサ科の多年草で芋麻とも言います。昭和村では上布の原材料となる上質なからむしが途絶えることなく生産され続けています。吸湿速乾性に優れており、さらりとした感触が心地よく夏の衣料を始め小物や装飾品など用途は多岐に渡ります。特に、夏衣として一度着用すれば他の織物を着ることができなくなると言われるほど上質な製品です。

福島県 会津塗  
東北最古の白磁器と  
陶器・磁器二つの顔  
戦国時代に、会津若松の黒川城の屋根に使う瓦を焼いたことから、焼き物作りが始まったと言われます。東北最古の白磁器の里であり、陶器磁器の両方を作っている産地です。磁器は呉須による染付や和洋絵の具による彩画等、多数の技法を持ち、陶器は伝統的なあめ釉や自然灰釉を使用した、素朴で親しみやすい深い味わいを持っています。

山形県 天童将棋駒  
絢爛たる多彩な加飾  
会津の地に本格的に漆工芸が根付いたのは16世紀末、蒲生氏郷公の頃。常に最新技術を積極的に取り入れて成長を続け、蒔絵や沈金などによる多様な加飾に特徴があります。渋味のある「鉄錆塗」、もみ殻をまいて模様を出す「金虫喰塗」、木目の美しい「木地呂塗」、美しい塗肌「花塗」など、華やかな加飾法が用いられ、日本人好みの縁起の良い意匠や、伝統の会津絵が目を惹かせます。

山形県 置賜軸  
木目と木肌そして  
駒文字の美しさ  
今では全国将棋駒生産量の9割を占める天童。将棋は戦術を練る競技ですが、江戸時代末期、武士にふさわしい内職として駒つくりが奨励されました。木地作り、駒彫り、駒書き、と分業化された製造工程を経ます。駒文字には楷書体と草書体があり、特に草書体は、天童将棋に伝承されている独特で美しい文字です。

山形県 置賜軸  
城下町米沢の絹織物  
置賜軸は、この地区で生産されている織物の総称で、米沢藩主上杉鷹山公の奨励により発展しました。米琉板縮小紋、白鷹板縮小紋、緯総縮、併用縮、草木染縮と5品種ありますが、いずれも先染の平織で、野趣に富む素朴な風合いが特徴です。草木染の中でも、特産の紅花で染める鮮やかな紅花染めは、紅花の生まれ故郷、置賜にて復活を遂げたものです。





### 伝統マークをご存知ですか？

経済産業大臣により指定を受けた伝統的工芸品は個々の商品に「経済産業大臣指定伝統的工芸品」という表示を付することができ、伝統マークを用いることは、指定を受けていることの証しとなります。

この表示は検査方法、検査基準等の検査規定について経済産業大臣の認定を受けた伝統的工芸品製造業者の協同組合等が行います。この検査は経済産業大臣が伝統的工芸品として指定した内容（伝統的技術、技法、原材料及び製造地域）に適合しているかどうかの検査です。従って、この検査に合格し「経済産業大臣指定伝統的工芸品」の表示がされているものは、まちがひなく伝統的工芸品といえます。

「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づき指定される「伝統的工芸品」は、次の要件を備えている必要があります。

1. 主として日常生活の用に供されるもの
2. 製造過程の主要部分が手工業的
3. 伝統的技術または技法によって製造
4. 伝統的に使用されてきた原材料
5. 一定の地域で産地形成

## TEAM TOHOKU CRAFT

### 青森県

経済産業部 地域企業支援課  
マーケティング支援グループ  
TEL.017-734-9375

[https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/sangyo/chikikigyodento-kogei\\_aomori.html](https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/sangyo/chikikigyodento-kogei_aomori.html)



### 岩手県

商工労働観光部 産業経済交流課  
TEL.019-629-5535

<https://www.pref.iwate.jp/>



### 宮城県

経済商工観光部 新産業振興課  
TEL.022-211-2722

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/shinsan/>



### 秋田県

産業労働部 地域産業振興課  
TEL.018-860-2225

<https://akita-tesigoto.jp/>



### 山形県

産業労働部 県産品・貿易振興課  
TEL.023-630-3316

<https://www.pref.yamagata.jp/110010/kensei/shoukai/soshikiannai/shokokanko/110010.html>



### 福島県

観光交流局 県産品振興戦略課  
TEL.024-521-7296

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/32031c/>



たびとうほく

### 旅東北

東北の観光地やイベント・モデルコースの  
おすすめ情報満載!

東北の観光情報は「旅東北」検索  
<https://www.tohokukanko.jp/>



### 秋田県

## 大館曲げわっぱ

優美な木目と杉の香り  
曲げわっぱには自然の厳しさに耐えた弾力性の高い秋田杉だけが使われます。こまかな年輪が生み出す独特の美しさや強靱さ、そしてすがすがしい杉の香り。秋田杉を薄く剥いて楕円を取り出し独自の技術で曲げ輪を作り、山桜の樹皮にて縫留めして製作します。軽く扱い易く、日用品として現代のニーズに合う製品開発にも力をいれています。

### 秋田県

## 秋田杉桶樽

雪深く厳しい環境で育った秋田杉は、年輪が揃って木目が細かく美しく、香りが良い上に、狂いが生じにくいという特性を持っています。秋田杉を使った桶樽の歴史は古く、秋田城からは平安後期と推定される桶が見つかっています。しかし木目や色を合わせながら厳選し、寸分の狂いなく桶や樽に組み合わせる技術は、まさに職人技。そして、呼吸する天然素材の良さが再び見直されています。



### 秋田県

## 角館だけに伝わる技術

天明年間、角館の下級武士の手に職として始まり、佐竹城主の保護のもと今日に受け継がれました。ヤマザクラの樹皮の質感を生かして作られる樺細工は全国でも角館だけに伝わる技術で、世界にも類を見ない樹皮工芸と言われます。ヤマザクラの樹皮の特有な美しさを表現した製品は、強靱で防湿性に優れ、使うほどに光沢が増し、実に洗いや野趣ある味わいを楽しめます。

### 秋田県

## 川連漆器

素朴で堅牢な実力派  
実際に重きを置いた素朴さが特徴の川連漆器。鎌倉時代から続く800年の伝統が育んだ暮らしの技術は、素朴なぬくもりを感じさせます。「地塗り」は代表的な下地工程で、この工程の丹念さにより堅牢な漆器に仕立げます。また、高度な技術を要する「花塗り」や、独特な技法の沈金技術も特徴です。



### 宮城県

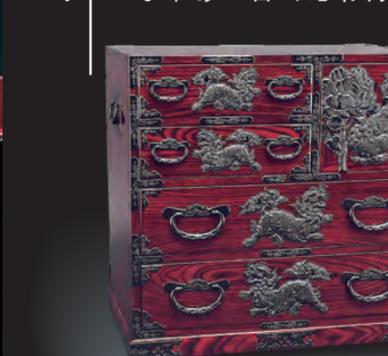
## 鳴子漆器

木目を生かす塗の技法  
江戸時代初期より350余年の歴史を持ち、鳴子の主要産物として日用品を中心に作られてきました。鳴子漆器の特徴は、優しい木目を生かした塗の技法で、使うほどに、漆は透明感を増し、木目もさらに美しく生かされます。透明な漆で木目を見せる「木地呂塗」、木地の表面に漆の色だけ残す「ふき漆仕上げ」「墨流の模様を作る「竜文塗」。また、「伝統的な「塗立て」「はし」とりとした美しさがあります。

### 宮城県

## 雄勝硯

伊達な文化を代表する  
豪華堅牢な筆筒  
江戸時代末期以降、武家・商家向けに製造されたのが始まりといわれている仙台筆筒は、ケヤキ等の木地に木目が浮かび上がる木地呂塗、料で派手な意匠の金属製の打ち出し金具が施されています。明治中期からは欧米への輸出のため外国人好みの唐獅子、龍等の豪華な金具が作り出され、その高度な技術は今に受け継がれています。



### 宮城県

## 宮城伝統こけし

東北だけのこけし文化  
江戸時代中期以後に、東北地方の温泉土産として生まれたものと伝えられ、宮城県内には「鳴子」「作並」「遠刈田」「弥治郎」「肘折」の5つの系統があります。頭部と胴体だけという、簡略化された造形。山村の自然に囲まれて育まれた素朴な美は、産地の独特の形・模様を通して今日に受け継がれています。

### 宮城県

## 秀衡塗

奥州藤原文化の香りを  
伝える金色の菱紋  
平安末、絢爛たる黄金文化を築いた奥州藤原氏に端を発すると伝えられ、赤と黒の基調の中に独特の菱形紋様の金箔がとりはめられます。この地方は、漆と金の特産の地でもあったことから金箔を用いた造りが受け継がれており、光沢を抑えた仕上げが漆本来の美しい艶をひきだし、高貴な格調と力強さを醸し出しています。



### 宮城県

## 浄法寺塗

良質ゆえのシンプルさ  
国内最大の漆産地でもあるこの地で受け継がれた伝統は、用の美。普段使いのための漆器だからこそ、良質の原材料を使い、確かな技によってつくられる飽きのこない質感が最大の特徴です。ほとんどが無地の本朱・黒・溜色の単色で、光沢をおさえた仕上げになっています。浄法寺塗の名は中世に岩手県北部を支配していた豪族「浄法寺氏」の名前に由来しています。

### 岩手県

## 岩谷堂筆筒

精密な紋様を鮮やかに  
打ち出す飾り金具  
ケヤキの美しい木目と繊細で豪快な飾り金具が調和し、重厚な風格と気品を誇る岩谷堂筆筒。岩谷堂は奥州藤原氏ゆかりの地でもあり、鍍金や木工等の伝統が古くからありました。厳しい風雪に耐え育った木目は年を経るごとに味を増し、手の込んだ打ち出し工程で作られた金具が堅牢性をさらに高めます。



### 岩手県

## 南部鉄器

質実剛健・丈夫で長持ち  
17世紀中頃、南部藩で京都から茶釜職人を招いたのが始まりです。盛岡と水沢で作られた鑄物を総称して南部鉄器と呼びます。伝統的技法の中でも、鉄器の錆を防ぐための「金気止め」は、南部鉄器独特の技術です。また、「飯」文様など、見た目の美しさのみならず、鉄の健康効果の面からも注目されています。

### 岩手県

## 津軽塗

最北端の伝統漆器  
津軽塗は、元禄時代から青森県弘前を中心に作られてきた、わが国最北端の伝統漆器です。堅牢で優美な塗りが特徴ですが、津軽ヒバを素材に、約50もの工程を経て完成されます。色漆の断面が美しい斑点模様をなす「唐塗」や、江戸小紋風の「ハタリ」が粋な「ななこ塗」、錦風の豪華な「錦塗」、艶消しの洗った黒地の「紋紗塗」など、多彩な技法を誇ります。



### 岩手県

## 浄法寺塗

良質ゆえのシンプルさ  
国内最大の漆産地でもあるこの地で受け継がれた伝統は、用の美。普段使いのための漆器だからこそ、良質の原材料を使い、確かな技によってつくられる飽きのこない質感が最大の特徴です。ほとんどが無地の本朱・黒・溜色の単色で、光沢をおさえた仕上げになっています。浄法寺塗の名は中世に岩手県北部を支配していた豪族「浄法寺氏」の名前に由来しています。

### 岩手県

## 雄勝硯

伊達な文化を代表する  
豪華堅牢な筆筒  
江戸時代末期以降、武家・商家向けに製造されたのが始まりといわれている仙台筆筒は、ケヤキ等の木地に木目が浮かび上がる木地呂塗、料で派手な意匠の金属製の打ち出し金具が施されています。明治中期からは欧米への輸出のため外国人好みの唐獅子、龍等の豪華な金具が作り出され、その高度な技術は今に受け継がれています。



【制作・発行】  
TEAM TOHOKU CRAFT 事務局  
東北経済産業局 文化創造産業室  
TEL:022-221-4923

